

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)~20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

1

帽子の色

白

帽子の色

青

鳥羽高等学校

17

4	-	0
5	-	3
2	-	2
6	-	1
ps		

関西高等学校

6

審判1: 佐藤 國寛

審判2: 黒崎 千智

戦評

「2018彩る感動東海総体」水球競技がいよいよ開幕となった。本大会のオープニングゲームを飾るのは、ともに強豪校として水球界に名を馳せる京都府立鳥羽高等学校と岡山県・関西高等学校である。白・鳥羽高校はリオデジャネイロオリンピックに筈井翔太、竹井昂司の2選手を輩出、対する青・関西高校もこの後インドネシアで行われるアジア大会に高田充が選ばれるなど、両校の出身者が数多く日本代表に名を連ねていることから強豪校と言える。

第1ピリオドのスタートは、鳥羽⑦藤原君がセンターボールを取る。お互いにシュートを放つも膠着した状態が続いたが、5:43鳥羽⑤山本君が右サイドからセンタリング、中央でフリーになった⑥岡本君がシュート。この試合の先制点をあげる。その後も⑤山本君が絶妙な位置取りから相手のパスをカット、右サイドへボールを出すと自身もすかさず攻撃へ参加。折り返し受けたパスでゴールを狙うと、⑥岡本君へアシストパス。得点を決めてリードを奪う。関西も③片山君を中心に、センタリングからのゴールを狙うが鳥羽の堅守に阻まれて得点を奪えない。⑥藤田君が鳥羽の退水を誘発し、タイムアウト。落ち着いてゴールを狙うが得点に繋がらない。

第2ピリオドは関西の1年生⑦岡本君がセンターボールを奪い、関西からの攻撃で始まる。関西②荒木君の5mシュート、③片山君のミドルシュートで2点を返す。さらに関西③片山君はゴール前でポジションを取るとキーパーが飛び出す隙を狙ってシュートを放つも、ゴールまであとわずか届かず。鳥羽は④藤井君が左の角度のない場所からシュートを放ち得点を決める。5点を追う関西は外周からのシュートがポストに当たって跳ね返ったボールを③片山君が反応する。たまたま鳥羽ゴールキーパーが押さえてしまい、関西にペナルティスローが与えられる。このチャンスを③片山君が決めて4点差とする。終了間際の0:13、鳥羽退水から関西がタイムアウト取る。関西は鳥羽ディフェンスの隙をつき、センターにボールを入れるもシュートできず、鳥羽がリードを守り抜いた。

第3ピリオドの出だし、鳥羽は関西のパスミスからボールを奪い、6:46 ②竹村君がフリーになり、落ち着いてハーフループシュートを決める。続く鳥羽の攻撃、関西は中央がフリーになる絶体絶命のピンチを迎えるが、関西ゴールキーパー高木君が好セーブでピンチを救う。さらに続くコーナースローからの鳥羽の攻撃もセーブ。2連続セーブでチームの士気を高める。3:18には関西④児島君がドライブから鳥羽の退水を誘発する。タイムアウトから再び関西④児島君が右サイドからゴール左下の逆サイドをつくシュートで得点する。11-5で鳥羽リードであるが、このピリオドは2-2の同点で終える。

最終の第4ピリオド。関西の巻き返しを期待したいところであるが、先制は鳥羽。②竹村君がゴールを奪うと、このピリオド2点目も②竹村君のシュートがポストに当たったところを⑩渡邊君がリバウンドを奪いゴールに押し込む。関西は4:08、⑥藤田君が右サイドから中央へパスを送ると見せかけ、相手の意表を突くシュートを同サイドに決める。しかし、その後も鳥羽⑦藤原君の得点を許し、ゲームセット。鳥羽がオープニングゲームの勝利を決めた。

相手の下がり気味ディフェンスに得意の回転攻撃は封印して勝利を収めた鳥羽高校。2回戦以降は動きの速い相手に対して、自分たちの持ち味を生かしながら、どうやって攻防していくかがポイントになるであろう。敗れた関西高校は1・2年生が8名とまだまだ伸び代のある、これからのチームである。今後の成長に期待したい。

記載者

荻野 浩明

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

2

帽子の色

白

帽子の色

青

埼玉栄高等学校

17

4 - 0  
7 - 2  
3 - 2  
3 - 2

ps

修道高等学校

6

審判1: 井上 嘉隆

審判2: 山崎 昇

戦評

第1ピリオドは埼玉栄③大村君がセンターボールを取り開始された。お互いに慎重な攻撃、隙きのないディフェンスでシュートまで攻撃を展開することができない緊張感のあるスタートとなった。修道は⑧清水君をゴール前に置きセンターポジションからのシュートを狙うものの、埼玉栄の外周でのプレッシャーが強く、センターポジションへパスを出せない。埼玉栄は外周でのボールカットを起点にカウンターアタックをしかけ、5:45について④藤井君がディフェンスを背負いながらもゴールを決め膠着状態が解かれた。修道は埼玉栄のディフェンスのプレッシャーの中、細かな動きでパスコースを生み出し外周でパスを回すことでディフェンスの陣形を崩し、⑨林田君がシュートを打つものの惜しくもクロスバーに弾かれた。埼玉栄は泳ぎのスピードを活かした攻撃を繰り返し、カウンター攻撃での得点を重ね4-0とリードして第1ピリオドを終えた。

第2ピリオドになると、修道は外周でのパスが回るようになり5:38⑧清水君がセンターポジションでパスを受けゴールを決めた(5-1)。このゴールを機に反撃に転じた修道であったが、埼玉栄は素早い展開の攻撃で連続4得点を挙げ、修道の追撃を許さなかった。残り3分、修道は攻防の切り替えの隙きを突き素早い攻撃の飛び出しで退水を誘発。確実に得点につなげたい修道はタイムアウトを使う。退水の攻撃では右サイドから長いパスを③菊池君が左サイドで受けシュートを打ちゴールを決めた(9-2)。

第3ピリオド開始直後、埼玉栄④藤井君が7m付近から技有りのバウンドシュートを決める(12-2)。④藤井君はこのあともセットオフenseでのセンターポジションからのシュート、カウンターアタックでのシュートなど様々なシーンでシュートを決め、またセンターポジションにいる⑫田谷君へ絶妙なパスをアシストするなど、最初から最後まで④藤井君の活躍が目立つ試合であった。

第4ピリオドになると、埼玉栄の退水が続いた。修道の退水オフenseでは左サイドの②山下が放ったシュートがクロスバーに当たり、こぼれたボールを⑥山崎が押し込み得点を挙げた(14-5)。その後修道は必死のディフェンスで埼玉栄の攻撃をしのぎ、退水オフenseで得点を重ねる。しかし埼玉栄のセットオフenseでは②今君がカットインからループシュートを決め、修道に傾きかけた流れを再び戻した。修道は最後に④神野君がセンターポジションでシュートを試みるが、埼玉栄のディフェンスに囲まれシュートに繋がられなかった。

埼玉栄のカウンターアタックは、攻撃に参加する選手同士がお互いの距離を正確に保ちながらスペースを確保することで、ディフェンス選手がボールマンへプレッシャーをかけられない状態を作りの確にシュートまで持ち込んでいた。またディフェンスにおいても常に両隣との連携の取れた動きを見せていた。埼玉栄はこのような正確な予測に基づいた、素早く組織的なプレーが攻守の随所にみられ、これが勝利の要因となった。一方の修道は個人で積極的な攻撃を仕掛け、試合の最後まで攻める姿勢を崩さなかった。修道のメンバーは2年生が中心であり、この経験を活かすことができれば今後の活躍が期待

記者者

村瀬 陽介

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

3

帽子の色

白

帽子の色

青

長浜北星高等学校

15

3	-	1
4	-	2
3	-	2
5	-	3
ps		

新潟産業大学附属高等学校

8

審判1: 福元 寿夫

審判2: 佐伯 弘幸

戦評

長浜北星は、長浜商工時代の優勝をはじめ数多くの入賞を果たしているインターハイ常連校である。対する新潟産業大学附属高等学校は、創部3年目で初のインターハイ出場を果たした。どのような試合展開になるのか楽しみな1戦である。

第1ピリオド白⑦森川君がセンターボールを取り、試合が開始される。まずは7:25ハンドオフのターンオーバーから抜け出した白⑤キャプテン山瀬君が幸先よく先制。お互い激しいオールプレスディフェンスを敷く中、白⑥佐藤君の退水誘発から6:04白⑦森川君がゴール前でしっかり決め、さらにミドルレンジから4:50白④山田君のループシュートで3-0とする。産大附属も負けじと1年生フロター青⑪栗山君が退水を誘発するが、長浜北星の連携したディフェンスから得点できない。しかし、その後パスカットのターンオーバーから退水を誘発し、今度は青⑪栗山君がしっかりと決め、3-1とし第1ピリオド終了。

第2ピリオドは、第1ピリオドとは逆に青⑪栗山君がセンターボールを取り開始される。どちらも次の1点を先に取りたい中、長浜北星は青⑪にボールを集めようとする産大附属に対してプレスと下がりをして上手く使い分け、中々ゴール前までにボールを入れさせない。産大附属もシュート圏外の選手からシュートを打たせ、ゴールを割らせない。非常に集中した時間帯が続く。この膠着状態を破ったのは、白②横田君。カットインからディフェンスに押さえられるも踏ん張ってゴール右下にシュートし4-1。2:59には白⑦森川君が思い切りのよいミドルシュートを決め、産大附属を突き放しにかかる。1:59攻撃時間が少なくなったところで青⑥鈴木君のミドルシュートがハンドアップに当たるも気持ちで押し込み5-2。その後、1:38と0:30に白⑤山瀬君、0:30青⑫山田君が決めこのピリオド7-3で終える。

第3ピリオド、どちらもシュートを放つが中々得点出来ない。5:10白⑤山瀬君がカウンターを確実に決める。3:45守りの中心である白②が2回目の退水。このチャンスをものにしたい産大附属は慎重にパスをまわすも得点に繋がられない。一方、長浜北星は2:13退水中にしっかり決める。1:15カウンターで抜け出した青⑥鈴木君が確実に決めると、0:52白⑦森川君が冷静に決め、さらに0:35青⑧竹内君がシュートを決め、10-5で終了。

最終ピリオド、長浜北星がワンタッチでパスを回しシュートを決めると、産大附属もワンタッチでパスをまわし青⑪栗山君が2連続得点し、11-7となり産大附属が勢いづく。しかし、そうはさせまいと長浜北星がここから4連続得点し、突き放す。0:09青⑦鈴木君が意地のシュートを決め、試合終了。

勝利した長浜北星はどの選手からも得点でき、非常に攻撃的なチームで明日からの試合も楽しみである。産大附属は、まだ1、2年生が多い若いチームであり、今後の活躍に期待したい。

記者者

清水 信貴



水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

4

帽子の色

白

帽子の色

青

聖カタリナ学園高等学校

11

3 - 3  
3 - 4  
3 - 0  
2 - 3  
ps

群馬県立前橋商業高等学校

10

審判1: 齋藤 好史

審判2: 井上 嘉隆

戦評

1回戦第4試合は愛媛県・聖カタリナ学園高校と群馬県立前橋商業高校の対戦であった。聖カタリナ学園は創部3年目でありながら、昨年の愛媛国体出場の経験を生かし、インターハイ初出場を果たした。対する前橋商業は言わずと知れた強豪校である。同校出身者として過去にはリオデジャネイロオリンピックに柳瀬彰良、現在の日本代表では海外のチームでも活躍する志賀光明がこの後行われるアジア大会に選出されている。

第1ピリオドは聖カタリナ⑥宇都宮君がセンターボールを取り、試合が始まる。さらに先制点を挙げたのも聖カタリナ⑥宇都宮君。カウンターからのシュートを決める。負けじと前橋商業も⑨齋藤君からゴール前で待ち構える③岡田君へロビングパス。これを決めて同点とする。再び4:42には前橋商業⑨齋藤君から③岡田君のホットラインが繋がリゴール。2点のリードを奪う。対する聖カタリナも②高内君のミドルシュートと⑥宇都宮君のミドルシュートと連続ゴールを挙げ、同点に追いつく。同点で迎えた0:22、前橋商業はタイムアウトを取り最後の攻撃に賭ける。⑥茂木君をゴール前へダミーで浮かして、③岡田君がカットインしてシュートを狙うも決まらず。反対に0:08、聖カタリナがタイムアウト。再開から外周でシュートを狙うが、前橋商業必死のディフェンスでボールをカット。残り2秒で無人のゴールへシュートを放つが、ディフェンスにコースをブロックされ届かず、第1ピリオドを同点で終える。

第2ピリオドは前橋商業が先制点を挙げる。③岡田君がゴール前でポジションを取りディフェンスを引きつけたところを⑨齋藤君がミドルからハーフループシュートを決めた。2点を追う聖カタリナは⑥宇都宮君が7m付近からゴール右下へ滑るようなシュート、さらに⑤安田君がミドルからゴール右隅へバウンドシュートを決めて、再び同点。試合を降り出しに戻された前橋商業は、③岡田君が退水を誘発、外周から同じく③岡田君がシュートを放つが、聖カタリナゴールキーパー飯田君に阻まれる。しかし、チャンスは前橋商業に。③岡田君に二人ディフェンスがついた隙について、⑨齋藤君がカットインからシュートを決めてリードする。続く前橋商業⑥茂木君が誘発した退水を、左サイドから⑨齋藤君がシュートし、2点にリードを広げる。第2ピリオドの終わりは聖カタリナ⑤安田君がペナルティを決め、1点差まで詰め寄り終える。

第3ピリオドは聖カタリナの攻撃が爆発する。⑦山下君が中央から外側へ体を流しながら受けてシュートを決めて、再び同点に追いつくと、追いつかれた前橋商業も③岡田君が⑨齋藤君へと逆パターンのパスを送る。⑨齋藤君がディフェンスを背負いながらパスへ手を伸ばすが届かず、シュートできない。続く聖カタリナの攻撃。カットインした聖カタリナの選手に潜り込んで妨害したとして、前橋商業が退水を取られるが⑨齋藤君がパスカットでしのぐ。リードしたい聖カタリナは⑥宇都宮君が左サイドからループを決め、遂に逆転に成功する。なんとか追いつきたい前橋商業であるが、ピンチが訪れる。聖カタリナ③島田君が半身抜け出しゴール前3mからシュートを放つが、前橋商業ゴールキーパー松本君がしっかりと両手を上げてこれを防ぐ。

第4ピリオドも聖カタリナがリードしたまま終える。聖カタリナは3:47、聖カタリナボールのフリースローを勘違いしてキーパーに返すというラッキーな退水を得るが、これは決まらない。対して、前橋商業は③岡田君が退水誘発すると、自分自身で左サイドの角度がない場所からゴールを決めて1点差に食い下がる。しかし、時すでに遅し。1点のリードを奪った聖カタリナが、最後は落ち着いてドリブルでボールを保持し、勝利を収めた。

この試合で敗れたものの、前橋商業の⑨齋藤君から③岡田君のホットラインは素晴らしい。地区予選では、この攻撃に苦しめられたチームも多かったことであろう。前橋商業は群馬県代表として、国民体育大会に参加する。両チームともに、次の試合に向けて、さらなる成長を期待したい。

記載者

荻野 浩明

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)~20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

5

帽子の色

白

帽子の色

青

福岡工業高等学校

4

0	-	4
1	-	3
0	-	5
3	-	5
ps		

大垣東高等学校

17

審判1: 山崎 昇

審判2: 伊藤 晃二

戦評

第1ピリオドは大垣東⑨小林幹太君がセンターボールを取り試合が始まった。大垣東はセンターポジションの④大角君を中心に攻撃を組み立てる。福岡工は高い位置からボールマンに対してプレッシャーをかけてディフェンスをする。大垣東の④大角君がオフェンスの流れの中で退水を誘発し、6:43左利きの⑦森田君が高い位置からのシュートを決め大垣東が先制した(0-1)。大垣東はその後も立て続けに退水を誘発し、6:04には③伊藤君から、5:07には⑦森田君からパスを受けた⑨小林幹太君が連続で2得点を挙げた。対する福岡工はデフェンスのプレッシャーが強くなかなかゴール近くまで攻め上がれない。大垣東の攻撃中のミスを超えてカウンターアタックを仕掛けるが、②大島君のシュートはゴールポストに当たりゴールを決められない。ピリオドの途中から福岡工は、大垣東④大角君を二人でマークし失点を防ぐディフェンスに変更した。攻めの拠点を防がれたくない大垣東は早い展開のオフェンスを仕掛けるが、シュートを①倉元君にセーブされる。ピリオドの後半はデフェンスで粘りを見せた福岡工だったが、残り4秒、大垣東⑤安藤君にロングシュートを決められた(0-4)。

反撃のきっかけを掴みたい福岡工だが、第2ピリオド開始直後にまたも大垣東⑤安藤にロングシュートを決められる(0-5)。ここで福岡工は⑧田中君がゴール前まで自分でボールを持ち込みゴールを決め、意地を見せつけた。その後も福岡工②大島君が個人技でゴール前に入り込み、④中村君へ絶妙のパスを出す、これを押し込みゴールすることはできなかった。なかなか得点が挙げられない福岡工は退水でのオフェンスを失敗し、直後に大垣東⑩竹内君にロングシュートを決められ、さらに流れが悪くなってしまった。福岡工②大島君が誘発した退水の攻撃中にペナルティーシュートを得るが、大垣東①西脇君にセーブされ追加点を挙げられなかった(1-7)。

第3ピリオド、福岡工はセンターボールを取るも直後にパスミスをし、失点してしまう。6:47、福岡工は③清水君が退水を誘発、その攻撃中さらに退水を誘発し二人多い状態で攻撃をするがシュートは枠を捉えられず、チャンスを活かすことができなかった。この後福岡工は大垣東④大角君へのダブルチームをやめ、積極的なマンツーマンディフェンスに切り替えるものの、大垣東はこのチャンスを見逃さず、これまで以上に積極的な攻撃で得点を重ねた。福岡工は②大島君をセンターポジションに置き得点のチャンスを狙うが、大垣東②岩田君のデフェンスの前に得点できなかった(1-12)。

第4ピリオドも試合の流れは大きく変わらなかったが、福岡工③清水君が5mシュートを決めるなど、疲労がたまり動きにくくなる試合の終盤にこれまで以上に積極的な攻撃を見せた(2-13)。また福岡工⑫神崎君も1年生ながら積極的に攻撃に参加し、カットインからゴールを奪った。終始苦しい展開を強いられた福岡工であったが、最後まで諦めずに攻め続ける姿勢は、観客にも大きな勇気を与えた。

記者者

村瀬 陽介

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)~20日(月)

会場:三重交通Gスポーツの杜 鈴鹿水泳場

ゲームNo

6

帽子の色 白

帽子の色 青

明治大学附属中野高等学校

15

3	-	5
2	-	2
7	-	2
3	-	3
ps		

鹿児島南高等学校

12

審判1: 福元 寿夫

審判2: 佐藤 國寛

戦評

大会1日目の最終試合は、明治大学附属中野高等学校VS鹿児島南高等学校。両チーム共に全国大会上位常連校であり、非常に高いレベルの試合が繰り広げられることが予想される。

第1ピリオド、青⑫長谷川君がセンターボールを取り試合が開始される。試合開始早々7:32白④関屋君がカットインから得点。お返しとばかりに、青④田村君がカットインから得点。速いラリーが続く中で5:58白③富永君がパワープレー中に得点。これまたすかさず青⑦キャプテン加藤君が退水を生かして得点。両者一步も譲らない展開である。その後、青④田村君が2連続得点を挙げるが、6対5のカウンターから1:23白⑦矢作君がミドルシュートを決める。0:02白③→⑫→⑥熊谷君にワンタッチパスが通り得点し、このピリオド3-5で鹿児島南リードで終える。

第2ピリオド、白②太田君がセンターボールを取り、開始。両者、ゴール前をケアしながら巧みに攻撃の芽を摘んでいく。その中、5:47右サイドを駆け上がった青⑫長谷川君が得点。4:44には白⑤キャプテン眞板君が5mシュートを決める。3:30青⑪都田君のミドルシュートが左バーに当たって入る。取っては取られての展開の中、ゴール前のポジション争いが激しくなり、3:04白⑦青⑦両者退水が起こる。1:33退水のチャンスを白⑦矢作君が決め、このピリオド2-2の同点、トータル5-7鹿児島南リードで終える。

第3ピリオド、明大中野の攻撃が目覚ます。7:40白⑥熊谷君のフローターシュートを皮切りに白⑤眞板君、白⑦矢作君がそれぞれ2得点ずつし、なんと5連続得点。10-7と一気に逆転する。鹿児島南も⑨加治木君へ左サイドからパスが通り2連続得点し、食い下がるが、調子が上がってきた白⑤眞板君がまたもや2連続得点し、鹿児島南を寄せ付けない。12-9の明大中野3点リードでこのピリオドを終える。

最終第4ピリオドも明大中野の勢いは止まらず、白⑤眞板君、白⑥熊谷君、白⑦矢作君の3連続得点を挙げ、鹿児島南を突き放しにかかる。しかし、鹿児島南は諦めない。青⑪都田君の回し込みから技ありシュートを決め、会場を沸かす。その後も攻め続け、青⑨加治木君の2連続得点で追いつがるも届かず、15-12で試合終了。

明大中野、鹿児島南どちらのチームも非常によく鍛えられており、見ている観客が水球競技の魅力を存分に味わうことのできた。明大中野は、明日からの試合どのような水球を見せてくれるか楽しみである。鹿児島南も負けはしたが、連携の取れたディフェンス、フローターを中心とした多彩なオフェンスは観る者を魅了した。9月に行われる国体での活躍を期待したい。このような試合を見せてくれた両チームに拍手を送りたい。

記者

清水 信貴